

| | | | |
|------------|--|---------|-------------------------|
| コ ー ス | 一般衛生学 (Public Health and Hygiene) | | |
| 学年・期・単位 | 第2学年・後期・1単位 | 科目担当責任者 | 荒川 浩久 (健康科学講座 口腔保健学・教授) |
| オフィスアワー | 講義日の放課後～18:00 (第2研究棟4階の担当の各先生の部屋) | メールアドレス | arakawah@kdcnet.ac.jp |
| 一般目標 (GIO) | 疾病予防と健康保持増進のための社会制度と環境因子によるヒトへの影響を理解し、健康づくりの方策を習得する。 | | |

| 講義ユニット | 一般目標 (GIO) |
|--------------------|---|
| 1. 健康の概念、疾病予防と健康管理 | 現代の健康に対する概念と疾病の自然史に対応する予防について理解し、健康の保持増進の基本を習得する。 |
| 2. 生活習慣病と感染症の予防 | 感染症と生活習慣病の成立機転やリスク因子などの特徴を理解し、それらの予防対策について習得する。 |
| 3. 環境と健康 | 人間生態学の重要性を認識するとともに、環境と健康の関わりについて理解し、環境保全の対策について習得する。 |
| 4. 国民栄養とその実態 | 日本人の社会生活、生活様式による栄養摂取の問題点とその改善策を考える。また、食中毒の概要を把握し、食品の安全性確保対策を習得する。 |
| 5. 人口問題 | 世界とわが国の人口の動態を理解し、人口抑制手段、少子高齢化の問題点とその予測について習得する。 |
| 6. 産業保健 | 産業保健の意義と管理体制を理解し、健康保持増進対策を習得する。 |
| 7. 精神保健 | 心身の健康を達成する上での精神保健の意義を理解し、わが国の精神保健福祉制度の活用について習得する。 |
| 8. ふり返り総合学習 | 一般衛生学のすべてのユニットをふり返り、重要事項を習得する。 |

| 教科書 | | |
|------------------------|----------------------------|------|
| 書名 | 著者名等 | 発行所 |
| A スタンダード衛生・公衆衛生 (第12版) | 末高武彦、米満正美、神原正樹、安井利一、荒川浩久 編 | 学建書院 |

| 評価法 (EV) |
|---|
| 客観式後期本試験 (80%)、学習ポートフォリオ (5%)・講義ノート (5%)、出席状況 (10%) と受講態度 (減点) による総合評価。 |

| 授業計画 | | | | | | |
|------|-------|---------------------|---|--|-------|--|
| 回 | 日付 | ユニット | 行動目標 (SBOs) | 学習方略 (LS) | 授業担当者 | コアカリ/国試出題基準 |
| 1 | 9/6 | 健康の概念、 疾病予防と健康管理 | 1. 現在の地域保健の特徴を説明できる。 2. わが国における公衆衛生の変遷を説明できる。 3. 国際保健医療協力の枠組みを説明できる。 4. 現代における健康の概念を説明できる。 5. WHO による健康の定義を説明できる。 | A P1～13。 形成的自己評価のために予習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 荒川浩久 | C-1-①③ C-3-1)-①～③ 必-3-A-a,b,c 総-(Ⅰ)-1-A, B, C 総-(Ⅰ)-4-B, E 総-(Ⅰ)-6-A, B |
| 2 | 9/13 | | 1. 健康日本21の9つの目標を列挙できる。 2. 健康日本21の歯の健康の目標を説明できる。 3. 疾病の自然史を説明し、各段階に対応する予防の意義を関連づけることができる。 4. 疾病予防の3相5段階を説明できる。 | A P14～20、39～42。 形成的自己評価のために予習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 荒川浩久 | C-1-①③ C-3-1)-① 必-2-A-a, b 必-3-A-d 必-3-Ⅰ-C 総-(Ⅰ)-1-D, E 総-(Ⅱ)-1-B |
| 3 | 9/20 | 防 生活習慣病と感染症の予 | 1. 感染症の成立機転を説明できる。 2. 感染症予防対策を説明できる。 3. 新感染症法による感染症の分類意義と医師による届出について説明できる。 4. 検疫感染症を列挙できる。 5. 予防接種の意義を説明し、予防接種法による予防接種を挙げることができる。 6. 日本人の死因上位の年齢変化を説明できる。 7. 生活習慣病を列挙できる。 8. 日本人3大死因のリスク因子を挙げ、予防の基本を説明できる。 | A P42～62。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 宋 文群 | C-3-2)-① C-4-2)-① D-3-1)-②③ D-3-2)-①②⑦ 必-3-Ⅰ-d 総-(Ⅱ)-11-A～C |
| 4 | 9/27 | 環境と健康 | 1. 環境変化に対するヒトの適応を説明できる。 2. 地球環境対策の現状を説明できる。 3. 地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化の原因と対策を説明できる。 | A P67～74。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 荒川浩久 | C-2-3)-①② 総-(Ⅱ)-13-A, B |
| 5 | 10/4 | | 1. ヒトの体温調節機構を説明できる。 2. 温熱条件を挙げ、それぞれの測定法を説明できる。 3. 温熱条件の総合的指標を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 4. 寒冷と暑熱に対する生体の反応を説明できる。 5. 正常な空気組成と呼吸による変化を説明できる。 6. 空気中二酸化炭素のヒトへの有益性と有害性を説明できる。 7. 一酸化炭素のヒトへの有害性と中毒機序を説明できる。 | A P74～82。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 宋 文群 | C-2-3)-①② 総-(Ⅱ)-13-G |
| 6 | 10/11 | | 1. 水の生理的必要性と生活必要量を説明できる。 2. 水道の水質基準の概要を説明できる。 3. 水道の病原生物による汚染を調べる検査と水質基準を説明できる。 4. 水道の特定化学物質の水質基準の概要を説明できる。 5. 水道水の硬度とその基準を説明できる。 6. 水系伝染病の特徴を説明できる。 7. 水道水の消毒法と残留塩素の意義を説明できる。 8. 残留塩素の種類と水道の水質基準を説明できる。 9. 水道システムの概要を説明できる。 10. 緩速濾過と急速濾過の特徴と急速濾過が日本に適している理由を説明できる。 11. 下水処理の概要を説明できる。 12. 活性汚泥法の概要を説明できる。 13. 下水、河川などの汚濁の指標を列挙し、その測定意義を説明できる。 | A P82～90。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 川村和章 | C-2-3)-①② 総-(Ⅱ)-13-G |
| 7 | 10/18 | | 1. 騒音の定義と人体への影響を説明できる。 2. 騒音性難聴の特徴を説明できる。 3. 紫外線の人体への影響を説明できる。 4. 昼光率を説明できる。 5. 均斉度を説明できる。 6. 住居の採光を高める方法を説明できる。 7. 住居の換気の目安を説明できる。 | A P90～92。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 宋 文群 | C-2-3)-①② 総-(Ⅱ)-13-H, I, J |
| 8 | 10/25 | | 1. 日本で発生した環境問題（公害）を列挙し、その原因を説明できる。 2. 日本の大気汚染の現状を説明できる。 3. 新たな化学物質による環境問題を説明できる。 4. 粉塵粒子のヒトへの有害性を説明できる。 5. 水質汚濁とその対策を説明できる。 6. 廃棄物処理制度の概要を説明できる。 7. 産業廃棄物を分類できる。 8. 歯科医院から排出する廃棄物の処理法を説明できる。 | A P93～101。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。 ビデオにて解説する。 | 川村和章 | C-2-3)-①② 総-(Ⅱ)-13-C～F |

| 授業計画 | | | | | | |
|------|-------|-----------|---|---|-------|--|
| 回 | 日付 | ユニット | 行動目標 (SBOs) | 学習方略 (LS) | 授業担当者 | コアカリ/国試出題基準 |
| 9 | 11/1 | 国民栄養とその実態 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人の栄養摂取状況に関する国家統計を説明できる。 2. 日本人の栄養摂取状況、身体状況、食生活状況について説明できる。 3. 「食生活指針」(2000年)の内容について説明できる。 4. 日本人の食事摂取基準(2005年)の概要を説明できる。 5. 日本人の食事摂取基準(2005年)の「指標」について説明できる。 6. 各栄養素の策定目的とその特徴が説明できる。 7. 食事バランスガイドが説明できる。 | A P103~118。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものをHP掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 荒川浩久 | F-1-6)-(2)-④⑤ 必-3- I -a, b 総-(II)-12-A ~ D |
| 10 | 11/8 | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 食中毒の定義、分類、発生状況を説明できる。 2. 主な食中毒の原因、中毒症状、予防法などについて説明できる。 3. 食品の保存法について説明できる。 4. 食品衛生法による食品添加物の定義、分類、成分規格、表示基準などについて説明できる。 5. 食品添加物の種類を説明できる。 6. 食品の安全性確保対策を挙げ、それらについて説明できる。 | A P118~130。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものをHP掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 木本一成 | F-1-6)-(2)-④⑤ 総-(II)-12-E, F |
| 11 | 11/15 | 人口問題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 国勢調査の概要を説明できる。 2. 人口ピラミッドの種類を挙げ、それぞれの特徴を説明できる。 3. 日本の人口ピラミッドの特徴を説明できる。 4. 人口の年齢3区分を説明し、これまでの推移と将来予測を述べるができる。 5. わが国の年齢構造指数の現状と予測を述べるができる。 6. 人口動態統計の指標を列挙できる。 7. 人口再生産率の指数を挙げ、説明できる。 | A P131~136。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものをHP掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 荒川浩久 | C-2-2)-⑤ 総-(II)-9-A |
| 12 | 11/22 | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 粗死亡率と年齢調整死亡率の違いを説明できる。 2. 日本の出生率と死亡率、および乳児死亡と周産期死亡の現状を説明できる。 3. 生命表の見方を説明できる。 4. 平均寿命と平均余命の定義を述べるができる。 5. 世界の総人口を述べ、大陸別人口内訳を示し、人口の多い国を列挙することができる。 6. 先進国と発展途上国の人口増加の現状を説明できる。 7. 日本の総人口の推移と将来の人口の予測を述べるができる。 | A P136~142。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものをHP掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 荒川浩久 | C-4-2)-①② 総-(II)-9-A |
| 13 | 11/29 | 産業保健 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の意義を説明できる。 2. 労働災害の現状を述べるができる。 3. 産業保健対策を述べるができる。 4. 産業保健の3管理を説明できる。 5. 産業保健の健康保持増進対策を説明できる。 | A P201~212。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものをHP掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 木本一成 | C-2-2)-①⑨ 必-3-E-a 総-(II)-4-A, B, C |
| 14 | 12/6 | 精神保健 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の機序を説明できる。 2. 成長発達段階に特異的な精神障害を説明できる。 3. わが国の精神保健福祉制度の変遷を説明できる。 4. 精神保健指定医の職務を説明できる。 5. 精神障害者の入院医療対策を説明できる。 6. 精神保健福祉における保健所と精神保健福祉センターの役割を説明できる。 7. 精神障害者の社会復帰政策を説明できる。 | A P213~220。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものをHP掲載利用電子ノートへ記録させる。 | 荒川浩久 | 準4-3)-③④ 総-(II)-7-A ~ E |
| 15 | 12/13 | ふり返り総合予習 | 1回から14回までの総復習 | | 荒川浩久 | |